

高密度集積回路

LSIデザイン コンテスト入賞

有明高専専攻科の井上さん、熊野さん

国内最難関初の快挙喜ぶ

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校(福島健郎校長)専攻科二年の井上優良(ゆうすけ)さん(21)、熊野修平さん(22)らは「第十六回LSI(高密度集積回路)デザインコンテストin沖縄2013」で敢闘賞を受賞。デジタルの集積回路設計者にとって、国内最難関ともいわれているコンテストで、初の入賞に喜びをかみしめている。

コンテストは琉球大学と九州大学の教員で構成する実行委員会などが主催。国内外から二十チーム約六十人が応募し、インドネシアの大学を含む八チームが最終選考に進んだ。

五年(当時)のオドバヤル・アマルサイハンさんの三人が参加。課題は「ソフトウェア・ハードウェア協調設計を用いたノイズ除去システム」で、音声の雑音を除くシステムの開発に取り組んだ。

「今回は特に難しい課題で、他からはなかなか出せないのではないかと思ひ、

最終選考は三月十九日、沖縄県西原町の琉球大学で行われたが、アマルサイハンさんはすでに帰国していたため、井上さんと熊野さんのみが出席してプレゼンテーションし、敢闘賞が贈られた。

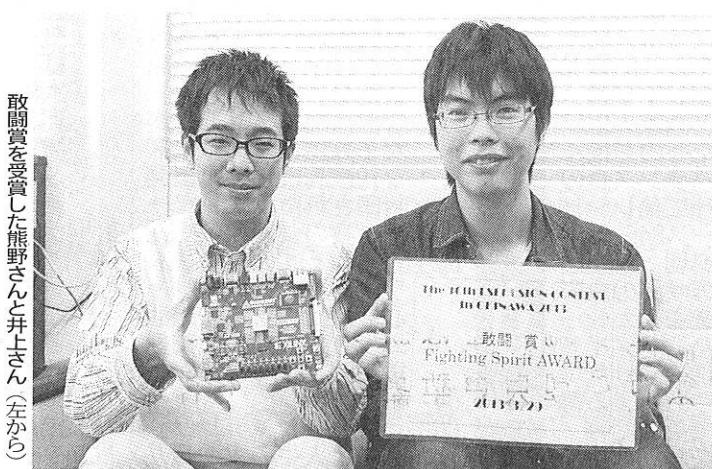
「もしも波形の表示まで完成していたら、優勝していた可能性も高い。知識や設計技術の不足が時

間切れにつながってしまいました」と二人。今後は井上さんが研究を引き継ぎ、システム完成を目指す。

同高専はすでにアナログ集積回路設計者の登竜門という「演算増幅器設計コンテスト」で優勝を

飾っており、石川准教授は「アナログ、デジタルの集積回路の代表的コンテスト両方で入賞を果たすことが目標でしたが、素晴らしい成績でそれを達成してくれました」と喜んでいた。

(河野 美緒)



敢闘賞を受賞した熊野さんと井上さん(左から)